

# 総務企画 委員会

## 重点調査項目 公共交通体系について

### 行政視察先 長野県安曇野市 長野県木曾郡木曾町

#### 【目的】

高山市における公共交通体系は幹線バス・のらマイカー・まちなみバスの組合せで今年三月から開始しました。本市においても高齢化・過疎化は加速度的に進んでおり必要性が高い課題です。有効性、効率性、妥当性などの視点を含め調査研究を行っています。

公共交通体系は地域政策と福祉政策の両視点が重要であることから、先進地の事例を調査研究しました。

#### 【特徴】

安曇野市では、社会福祉協議会がデマンド交通安曇野乗合タクシー「あずみん」を運営しています。この方式は、事前に利用予約した利用者の自宅や指定場所を順次廻りながら目的地で降車する「乗合タクシー」方式で、運用等の課題もありますが、福祉政策の観点からは一応成功事例とされています。

木曾町の交通システムは、幹線バス・巡回バス・デマンド乗合タクシーの組合せで、各交通機関が役割を明確にして運行しています。デマンド乗合タクシーは、巡回バス停留所から一キロ以上距離がある利用者から事前予約を受け、バス停まで有料で運行しています。

#### 【反映】

デマンド交通を中心とした二箇所の先進事例を調査研究しましたが、日本一広大な面積を有する高山市に同様のシステムを導入することは困難です。ちなみに安曇野市の面積は当市の1/6、木曾町は1/4です。

特に支所地域と拠点施設等の多い高山地域を結ぶには、幹線バスとのらマイカーが密接に関わり、補完し合うことが重要です。従って、市民・事業者・行政の協力で交通が体系化されるものですが、運用等には課題が残ります。

高齢化・過疎化が進む中で、公共交通は電気・水道と同様に重要なライフラインであり、交通手段の確保は行政の責務でもあります。当委員会は、他の交通機関との整合性や機能分担、利用者の拡大や財源等の問題を含めて検討を続けていますが、道路運送法と地域政策及び福祉政策が絡み合うので、課題は山積しています。



安曇野市デマンド交通受付センター

## 分野別市民意見交換会から

### 新公共交通体系における現状と課題

#### 【目的】

当委員会は、公共交通体系再編に伴い、運行事業者である濃飛乗合自動車(株)と、実証運行の実態について意見交換を行ないました。

#### 【経過】

事業者は、本年三月からの実証運行に際し、要員15名を採用し車両10台を購入しました。自社12路線を見直して「のらマイカー」「まちなみバス」「路線バス」が一体運行できるよう時間・本数の調整や停留所新設等を行ないました。

運賃も市の協力を得て改めました。地域内の路線バスは「のらマイカー」と同じ100円とし、地域をまたぐ

場合は最高1000円と上限を定めました(市民対象)。また、「環境定期券」や「悠々手形」により、高齢者等への負担軽減にも努めています。

車両動態管理システム等の導入など、安全確保にも積極的な対応をしています。

事業者から見た効果は、以前から交通手段のない地域も通院・通学など移動が確保され、休日も移動が可能となったことや、運賃の不平等が解消された点などが挙げられました。

また課題については、運行所要時間の適正化、運行時間の見直し、冬期の接続問題、運行経路やバス停の位置、利用が少ない地域への対応、新久美愛病院に向けた経路の変更なども指摘されました。

#### 【意見交換から】

利用者が少ない路線であっても、利用される方の必要性は高く、地域意見をまとめる中で市全体の交通体系の向上をめざす必要があります。

バス運行は、路線や時刻の周知・定着に一定期間を要するもので、短期間での判断は極めて危険です。

デマンド交通については、行政視察での検証も踏まえ、地域特性など様々な理由から、導入が便利向上と利用者増加に繋がるかの判断は難しいと思われます。

公共交通問題は、地域政策や福祉政策的な一面が大きいです。さらには法律的な規制が問題を複雑化しています。当委員会では引き続き調査項目として研究することを確認しました。